



令和7年度 第1回

学校運営協議会だより



令和7年10月1日

滋賀県立聾話学校

第1号

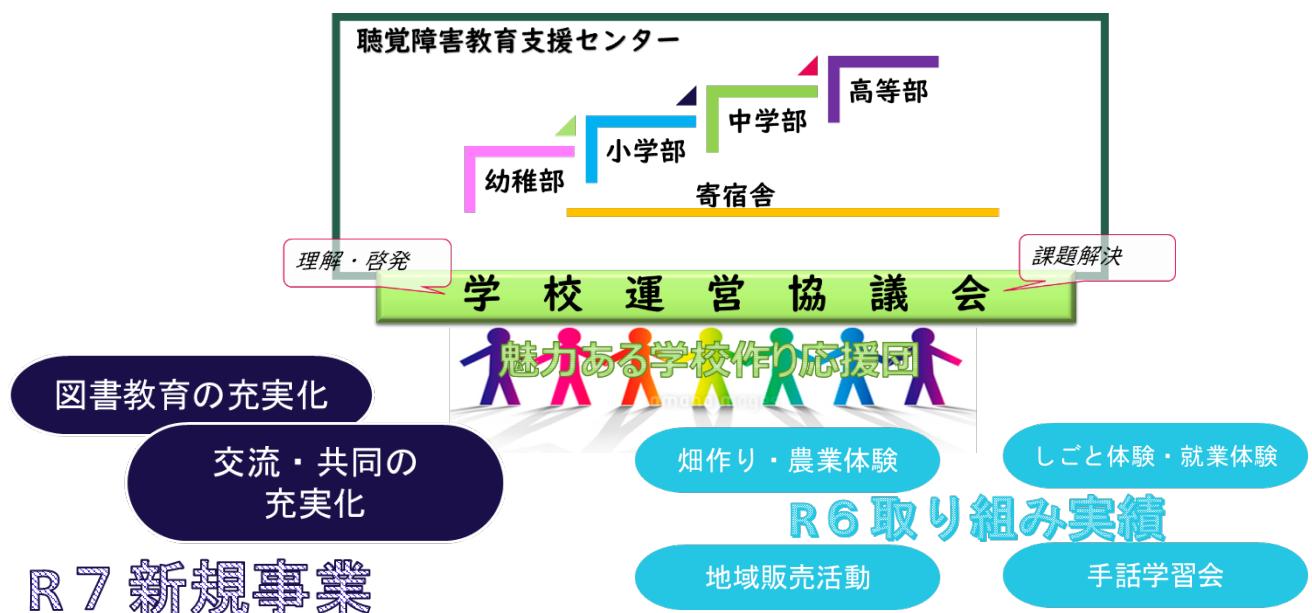
新たな学校運営協議会がスタートしました

昨年度は、“魅力ある学校作り”をテーマに委員様から様々なご意見をいただき、学校教育にご尽力を賜りました。そして、学校運営協議会がもたらす教育効果について確認をし、一つ一つの取り組みに手応えを感じることができた1年でした。今年度は、学校運営協議会が始まって2年目となります。新メンバーをお迎えし、7名から9名増員することができました。校外の方に学校教育に参画してくださるということは、「インクルーシブ教育の実現」や「開かれた学校づくり」の理念に通じるところであり、地域とともにある学校づくりがより一層進んでいくことを期待しています。昨年度の学校運営協議会での取り組みをより充実させながら、新しいことにもチャレンジできるように進めていきたいと思っています。



R7 聾話学校応援団のメンバー紹介

今年度の事業展開について



I. 今年度の事業について

<安部委員>畠づくりのお手伝いをこれからも続けていければと思う。高等部の生徒がなごやかセンター（栗東市総合福祉保健センター）で農産物の販売活動をされたりするが、そういったところでも今後とも協力できればと思う。

<林委員>司書の資格を持っていることから、学校図書館をお手伝いできればと思い今年度から聾話学校と連携している。分類をしっかりとして図書が取り出しやすくなるようお手伝いしたい。

<吉永委員>図書の管理は手間がかかるので、手伝えることがあれば声をかけてほしい。学校運営協議会のメンバーも増えており、学校において地域との連携を強化されていると感じる。私が加入するグループ(12~13人)が民生委員と一緒に市内の学校(治田東小)に入って定期的に活動している。こうした取組を広げていければと思う。

<安藤CSアドバイザー>“地域に開かれた学校”がやっと国内でも言われるようになったが、海外では昔から地域に開かれていて、地域の人も学校に関わっている。オーストラリアの学校を視察した時に、大きな看板が設置されており、参加可能な行事等を案内しているのを見た。これはいい取組だと考え、愛知高等養護学校にいた時に実際にやってみた。地域の方が学校に関われるよう、もっと発信していくなければと思ったところ。地域の方が定期的に関与いただく仕組みづくりを進めていくのがいいと思う。

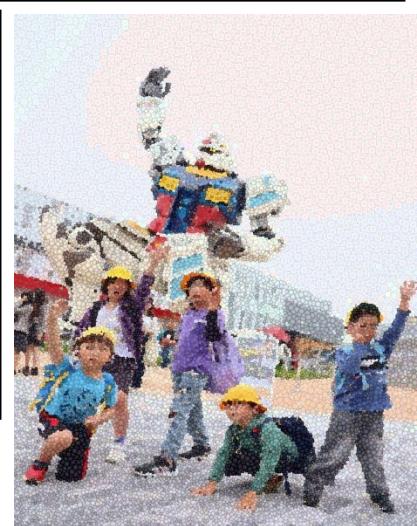
学校運営協議会の取組を先生方や保護者の方にも発信していただきたい。バナナや白蛇のことをニュースで見聞きしているが、どんどん発信することが地域とつながる秘訣だと思うので、これからも努めていただきたい。

2. 100周年に向けて

<吉永委員>もうすぐ創立100年の伝統ある学校である。幼稚部奥の建物に資料があると聞いているが、これらの資料を体系的に整理し、歴史の理解を求めるよう活用されればと思う。

<安藤CSアドバイザー>盲学校では創立100周年の際に資料室が整備された。聾話学校にも貴重な資料が沢山あるので、貴重なご意見をいただいたと思う。

<齊内主任主事>たつのこ会館や図書館の蔵書が話題になったが、地域の方が図書の整理に関わっていくことは理想的な展開だと思う。



貴重なご意見ありがとうございました。
次回は、11月5日(水)午後の予定です。